

現在、静岡大学で法人統合・大学再編の話が議論を呼んでいる。静岡大学は、静岡キャンパス、浜松キャンパスの2キャンパスから成り立っており、単一キャンパスで部活動を行っている場合もあるが、両キャンパス合同で部活動を行っている団体も一定数ある。静岡大学吹奏楽団もその一つだ。

#### <楽団紹介>

静岡大学吹奏楽団は1965年に創設され、全国各地から学生が集まり、現在は89名の団員で活動している。団員の中には、吹奏楽団に入りたいため、静岡大学を選んで入学してきたものも少なくない。現在89名の団員のうち、浜松団員は17名で、約2割の団員数を浜松団員が占める。2004年に三田村健先生が常任指揮者に就任、続いて2005年に音楽監督として就任、昨年2018年には静岡大学客員教授になった。

平日は静岡と浜松、両キャンパスに分かれ練習をしており、週末を利用して静岡キャンパスで合同練習を行っている。1980年には全日本吹奏楽コンクールに初出場し、これまでに17回、全日本吹奏楽コンクールに出場している。今年は、大会原則で出場できなかった2回を除き、15年連続、13回目の出場を果たしている。年間行事としては、夏にサマーコンサート、冬に定期演奏会を行っている。他にも地域や各所からの依頼演奏、小学校や中学校で演奏する音楽鑑賞教室、今年の年末には3年ぶりに、台湾の嘉義市で行われる国際吹奏楽祭に参加をする。この嘉義市には、静岡大学吹奏楽団を応援してくださる方が多くいらっしゃり、静岡大学吹奏楽団のホールコンサートのチケットは即完売になってしまうほどである。

また、サマーコンサートでは演奏会の前に、「すべて見せます静岡大学吹奏楽団」と称し、集合から音出し、基礎合奏、そしてリハーサルまでを、中高生にみせるという、静岡市民文化会館との提携事業を行っている。この事業の意図としては、部活動の制限が厳しくなってきた現代、静岡市またその周辺の中学校、高校の吹奏楽部で、頑張っている意欲のある中高生に少しでも、同じ県内で吹奏楽をやっている我々が応援することで、地域貢献したいというものである。

#### <再編における問題>

ここでまず、人数の問題があげられる。吹奏楽コンクールには55人で出場する。しかし、実習、就職活動、研究室等、学業のため、練習に参加できず、大会に物理的に出られない団員も多い。演奏のクオリティを保つためにも、人数は多い方が望ましい。その切磋琢磨があつてこそ、全日本吹奏楽コンクールに連続出場を果たしている。また浜松キャンパスの人数だけでは吹奏楽を成り立たせるのは難しい。現在浜松キャンパスにある楽器等は現在の静岡大学吹奏楽団に必要なものであり、浜松キャンパスの人が別大学になったり、新たに吹奏楽をしたりするためには、1から楽器をそろえなければならない。

二つ目に挙げられるのはお金の問題だ。静岡大学吹奏楽団の演奏会や遠征に関しては、学校からの援助はなく、月々団員は団費を集め、活動している。また以下に挙げたのは毎年行っているサマーコンサート、それから今年度、吹奏楽コンクール出場のためにかかった費用である。(別紙表参照) 現在でもかなりの費用がかかっているが、ここから浜松の団員が抜けてしまうことを考えると、一人当たりの負担がかなり増える。

現在の団費の総額を静岡キャンパスの人数で割ると、一人当たり6,180円の集金となる。また、東海遠征の支出の合計から浜松団員の宿泊費を除き、支出の合計を残りの静岡キャンパス生で割ると、56,700円、全国遠征費に関しても、80,300円の集金となる。

特にサマーコンサートに関しては、開催場所である静岡市民文化会館と提携事業を行っているため、5年間はホール代が無料になっているが、来年度でこの事業は終わる。今後はホール代、付帯設備費等、30万円以

上かかき、一人当たりの集金額が16,000円となる。今年ホール代無料、浜松団員込みの89名で一人当たりの集金額は12,500円だった。(支出は今年度を参考、団員数も今年度の静岡キャンパス生で計算)

<今後のサマーコンサート予算案>

ホール代 332,930円	チケット売り上げ(今年度)	差額: 1,136,507円
その他付帯設備料金	270,880円	
トラック代 159,972円		全団員89名(うち浜松団員17名)
先生宿泊費交通費等 49,300円		$1,136,507 \div 72 = 15,784$
各係経費 865,185円		
支出: 1,407,387円	収入: 270,880円	一人当たり 16,000円

これらの金額を賄うためにも団員は日々、バイトと学業と練習を両立させている。上記で述べたように演奏のクオリティの保持、団員一人当たりの負担を軽減させるためにも、人数の確保が必要なことは明白である。

<学生の願い>

最後に、当団創設以来ずっと一緒にやってきた身としては、突然切り離されてしまうのはとてもさみしいことである。また、多くの学部の人と交流することで、様々な影響を受け、刺激を得ることができることも確かである。大学は学問を学ぶところであり、部活動、サークル活動はその次であることは承知である。だが、部活動、サークル活動は社会人になる前、最後の学生生活の中で、学生にしかできないことではないだろうか。教員にとっては部活動、サークル活動の価値というものそれほど高くないだろう。しかし、学生にとって、学生のうちにしかできないことに、最後の学生生活の中で打ち込みたいと思うことは、人生において、価値のあることではないだろうか。学生にとって、部活動、サークル活動の価値はそれなりに高いと感じている。また、吹奏楽団は全国大会に連続出場しており、当団で吹奏楽をやりたいと勉強に励んでいる中高生がいることも、上記で述べた提携事業で実際に中高生から話を聞いていることから、確かである。しかしながら、地域住民、大学教員、そしてなにより静岡大学の学生への説明が不十分であり、私たちも不安を抱いている。現在、再編の問題を不安視し、浜松キャンパスの入団部員が減ってしまっていることも、事実としてある。今後、静岡キャンパスの入団者数、静岡大学への入学者数にも影響が出てしまうかもしれない。また、先日の中日新聞の取材に対して、学長は「再編後も、旧静大の学生がいる間は従来の静岡、浜松合同の『旧静大』として扱うよう、大会の上部組織に申し入れをしたい」とあるが、吹奏楽コンクールにおいて、大学の部は単一大学でないと出場ができないという規約があることで、やむなく一般の部への出場をしている団体は一定数あるが、変わってこなかった。静大にだけそのような特別扱いがされるとは到底思えない。そんな簡単な話ではないはずだ。

まずは十分な説明と、統合することによって静岡キャンパスにはどのようなメリットがあるのかの説明を求める。また、上記で述べたような問題がある。浜松キャンパスと静岡キャンパス両キャンパスから成り立つ部活は吹奏楽団だけではないはずだ。部活動、サークル活動を統合・再編の話と切り離さないでほしい。そして、学生の言葉にも耳を傾けてほしいと思う。

<吹奏楽団でかかった費用（今年度比）と再編後の費用（予想）>

用途	内訳	現団員の集金	再編後(予想)
団費	先生謝礼 210,000円/月	5000 (円/月) × 89 (人)	6,180円
	その他楽器メンテナンス費	→445,000	
	各係経費		
	残りは積立金		
演奏会費 (Summer concert 2019)	チケット製作費	13,000(円) × 93 (当時)	16,000円
	パンフレット製作費	→1,209,000	(内訳は
	各係経費	(他チケット売り上げ等収入あり)	上記表参照)
	楽器運搬トラック代	支出：1,254,420	
	先生宿泊費 等	収入：1,344,440	
		差額：90,200 返金：500 (円/人)	
東海遠征（長野県開催） (8/16-17.31ホール練習 9/6-8 大会遠征)	ホール関係費 735,700	50,000 (円) × 89 (人)	56,700円
	バス関係費 1,758,130	→4,450,000	
	トラック関係費 637,388		
	宿泊費 1,496,778 (55人×3泊)	差額は返金	
	その他手数料	支出：4,082,419	
全国遠征（青森県開催） (乗り番10/24-27 降り番10/25-27)	ホール関係費 288,270	66,000 (円) × 89 (人)	80,300円
	バス.移動関係費 2,185,990	→5,874,000	
	トラック関係費 448,780		
	宿泊費 1,760,950 (55人×3泊+25人×2泊)		
	チケット代 201,406		
	その他手数料	差額は返金 支出：4,888,808	

連絡先 団携帯 090-8023-3680  
メール web\_desk@shizuoka-windorchestra.com